東京国立近代美術館 2027 年展覧会スケジュールのご案内

東京国立近代美術館（東京・竹橋）では、2027 年も多彩なラインナップの展覧会を開催します。企画展（1 階企画展ギャラリー）では、近現代美術の重要な日本人作家や、日本で初めて本格的に紹介される海外作家の個展など、時代とジャンルもさまざまな展覧会を開催します。作家たちの歩みとともに、創作への探求が発展していく過程を、新しい視点と最新の調査内容を盛り込んで紹介します。

所蔵作品展「MOMAT コレクション」（4〜2 階所蔵品ギャラリー）では、重要文化財 18 点を含む 14,000 点を超える国内最大級のコレクションの中から、年 3 回ほどの会期ごとに選りすぐりの約 200 点をご紹介します。変化に富んだ小特集を交えた多様な切り口で、近代以降の日本美術の流れを概観しながらいつでも名作に出会えます。

また、全館イベントとして毎年好評の「美術館の春まつり」を 2027 年も開催します。桜や春を描いた名画の特集展示を中心に、美術館周辺の桜と名画の競演をお楽しみください。夏には金・土曜の夜間開館を中心としたイベントや、芸術の秋を楽しむイベントなど、年間を通じてさまざまなプログラムを展開する予定です。

2027 年も、当館の展覧会にご期待ください。



萬鉄五郎《裸体美人》1912 年　重要文化財

■企画展

「竹久夢二　時代を創る表現者」	2026 年 10 月 23 日（金）〜2027 年 1 月 11 日（月・祝）
「斬新！ 速水御舟」	2027 年 3 月 19 日（金）〜5 月 9 日（日）
「山口晃　見／世／物」	2027 年 6 月 18 日（金）〜8 月 29 日（日）
「ミルトン・エイヴリー」展（仮称）	2027 年 10 月 9 日（土）〜2028 年 1 月 30 日（日）予定

■所蔵作品展「MOMAT コレクション」

MOMAT コレクション（2026.9.29–2027.1.11）	2026 年 9 月 29 日（火）〜2027 年 1 月 11 日（月・祝）
MOMAT コレクション（2027.2.9–5.9）	2027 年 2 月 9 日（火）〜5 月 9 日（日）

■全館イベント

「美術館の春まつり」	2027 年 3 月中旬〜4 月中旬　予定
「MOMAT サマーフェス」	2027 年 7 月中旬〜8 月下旬　予定
「MOMAT 秋びより」	2027 年 9 月下旬〜11 月上旬　予定

※2026 年 10 月時点の予定のため、今後変更が生じる場合があります。

報道関連のお問合せ先
東京国立近代美術館　広報担当
〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園 3-1
Tel：03-3214-2597　Fax：03-3214-2577　E-mail：pr@momat.go.jp

【企画展】

「竹久夢二　時代を創る表現者」



■会期：2026 年 10 月 23 日（金）～2027 年 1 月 11 日（月・祝）
■主催：東京国立近代美術館、毎日新聞社
■展覧会概要：

竹久夢二（1884–1934）は、画家、詩人、ジャーナリスト、デザイナー、イラストレーターなど、いくつもの顔をもつ表現者として、明治の終わりから昭和のはじめにかけて活躍しました。「夢二式」と呼ばれた女性像や、レトロモダンなデザインによって、大正ロマンを象徴する人物として知られています。

青春の感傷や郷愁、江戸情緒と異国趣味、都会の洗練への憧れが描き出された抒情あふれる作品は、雑誌や絵葉書、展覧会などを通して人々の共感を呼び、一世を風靡します。また、暮しを彩る日用雑貨のデザイン、子どものための本や雑誌作り、流行歌「宵待草」の作詩、関東大震災の記録など、時代をリードする仕事により、続く世代にも大きな影響を与えました。幅広いジャンルで活躍した夢二は、アートとメディアを横断した先駆的なクリエイターと言えるでしょう。

本展覧会は、夢二の最高傑作と名高い《黒船屋》をはじめ、日本画や油彩画、木版画、スケッチ、多種多様なデザイン、スクラップブックなど、全国の夢二コレクションから約 500 点の作品や資料を集めることで、その多岐にわたる仕事に迫ります。「美術」という枠を超えて、時代を捉え、流行を生み、人々に愛された表現者、夢二にご注目ください。

展覧会ウェブサイト：竹久夢二　時代を創る表現者

「斬新！ 速水御舟」



■会期：2027 年 3 月 19 日（金）～5 月 9 日（日）
■主催：東京国立近代美術館、毎日新聞社、日本経済新聞社
■展覧会概要：

速水御舟（1894-1935）は、大正から昭和初期にかけて活躍した日本画家です。畳の目をひとつひとつ描くような細密描写や、前衛にふみこんだ構成などにより、日本画を「斬新」に革新しました。

東京国立近代美術館では、5 年ほど前より御舟が残した貴重な資料類（日記、書簡、古今東西の美術や解剖学の資料等）をお預かりし、分類・調査を続けてきました。日記や書簡の一部など、すでに翻刻を終え公開したものもあります。御舟の画業を知るうえで、これらの資料がたいへん貴重なものであることは言うまでもありません。

この分類・調査を契機として、当館と毎日新聞社、日本経済新聞社は、御舟の回顧展を開催いたします。70 年を超える当館の歴史のなかで御舟展は初めてのことであり、国立美術館としても、1980 年に京都国立近代美術館で開催して以来、実に 47 年ぶりのこととなります。

出品作品は、東京と京都の国立近代美術館が所蔵する作品を軸に、全国の美術館、所蔵家の皆さまのご協力を得て、御舟のことをもっと知るために欠かせない作品、約 100 点を集めます。これらをさまざまな資料とつきあわせながら「斬新」に読み直してゆく展覧会となります。

展覧会ウェブサイト：斬新！速水御舟

報道関連のお問合せ先
東京国立近代美術館　広報担当
〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園 3-1
Tel：03-3214-2597　Fax：03-3214-2577　E-mail：pr@momat.go.jp

「山口晃　見／世／物」

■会期：2027 年 6 月 18 日（金）～8 月 29 日（日）
■主催：東京国立近代美術館、毎日新聞社
■展覧会概要：



山口晃 《テイル オブ トーキョー》 2023 年
撮影：宮島径
©YAMAGUCHI Akira, Courtesy of Mizuma Art Gallery

画家の山口晃（1969–）は、日本の伝統的な絵画様式を用いた油彩画をはじめ、立体、インスタレーション、漫画、文筆など、多岐にわたる表現活動で注目を集めてきました。

本展は、明治維新以降、美術という概念や制度が日本に輸入され、その定義が確立される過程で周縁に位置づけられてきた近世以前の表現や、近現代の大衆文化を手がかりに、美術の枠組みを問い直してきた山口の実践に焦点を当てます。

山口は学生時代、西洋を範として形づくられた日本美術の歴史と向き合い、自らの表現を模索してきました。油彩を用いながら、合戦図や洛中洛外図などの古典絵画の様式、メカニカルなモチーフや百貨店をはじめとする都市景観、さらにパノラマや漫画的な表現を取り入れ、過去と現在が入り混じる独自の絵画空間を生み出してきました。こうした時代や領域を横断する作品は、私たちが「美術」をどのように捉え、見ているのかを問いかけます。

タイトルを構成する「見／世／物」は、「見」が見る主体、「世」が見ることを方向づける社会的・制度的条件、「物」が見られる対象とその価値体系を示しています。本展では、こうした「見ること」の奥に潜むさまざまな要素に着目し、山口の初期作品から新作までを幅広く紹介します。

展覧会ウェブサイト：山口晃　見／世／物

「ミルトン・エイヴリー」展（仮称）

■会期：2027 年 10 月 9 日（土）～2028 年 1 月 30 日（日）予定
■主催：東京国立近代美術館、毎日新聞社
■展覧会概要：



ミルトン・エイヴリー《草を食むブラーマン種の牛》
1952 年、Milton Avery Trust and Waqas Wajahat, New York
©2027 Milton Avery Trust / Japanese Society for Protecting Artists' Rights (JASPAR). Courtesy Waqas

アメリカ人画家、ミルトン・エイヴリー（Milton Avery/1885–1965）は、繊細な色彩と平坦な画面を特徴とする、一見すると素朴でありながらも周到に構成された作風で知られます。マーク・ロスコ、バーネット・ニューマン、アドルフ・ゴットリーブら、のちにアメリカ抽象表現主義を担う画家たちに影響を与え、アメリカ美術の転換点において重要な役割を果たしました。同時代の流派やグループに括りがたい独自の表現を追求したため、その重要性は広く認められる一方で、美術史のなかでは独自の位置を占めています。しかし、今日においても世代や地域を超えて、多くの画家たちに参照され続けている、画家のなかの画家というべき存在です。

日本で初めてエイヴリーを本格的に紹介する本展では、代表作をはじめ初期から晩年にいたる彼の作品を通して、その画業を展観します。また、同世代の日本人作家たち（国吉康雄、熊谷守一、小野竹喬）の作品と比較し、時代や文化的背景を超えたひびきあいを見出しながら、エイヴリー芸術の特徴に迫ります。

展覧会ウェブサイト：ミルトン・エイヴリー展（仮称）

報道関連のお問合せ先
東京国立近代美術館　広報担当
〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園 3-1
Tel：03-3214-2597　Fax：03-3214-2577　E-mail：pr@momat.go.jp

【所蔵作品展】

◇所蔵作品展「MOMAT コレクション」（2026 年 9 月 29 日（火）～2027 年 1 月 11 日（月・祝））
　コレクションを中心とした小企画｜あみ・ど・ぱり　巴里の日本人芸術家たち

◇所蔵作品展「MOMAT コレクション」（2027 年 2 月 9 日（火）～5 月 9 日（日））
　コレクションを中心とした小企画｜日韓現代美術の交差（仮称）

※2026 年 5 月以降の所蔵作品展情報は、順次当館ウェブサイトにてお知らせします。

【全館イベント】

「美術館の春まつり」

■会期：2026 年 3 月中旬～4 月中旬　予定

■イベント概要：

毎年恒例、桜の時期のイベントです。 東京国立近代美術館は皇居や千鳥ヶ淵、北の丸公園といった桜の名所エリアに立地しており、散策で巡るにも絶好のロケーションにあります。所蔵作品展「MOMAT コレクション」では、桜、花にちなんだ春らしい作品を一室に集めて展示するほか、展示室ごとに設けたテーマの中から日本画、洋画、海外作品などを交えたさまざまな作品をご覧いただけます。

東京国立近代美術館について

東京国立近代美術館は、皇居のほど近くに建つ、日本で最初の国立美術館。最大の特徴は、重要文化財 18 点（うち 2 点は寄託）を含む 14,000 点超の国内最大級のコレクション。19 世紀末から今日まで、日本の近現代美術を中心とする多数の名作を所蔵しています。都会の真ん中でありがなら自然豊かなエリアに位置し、最上階の休憩室「眺めのよい部屋」からは、皇居の緑と丸の内ビル群のパノラマ・ビューをお楽しみいただけます。



東京国立近代美術館　外観

施設概要

館名	東京国立近代美術館
開館時間	10：00-17：00（金曜・土曜は 20：00 まで）※いずれも入館は閉館 30 分前まで
休館日	月曜日（祝日または振替休日の場合は開館し、翌日休館）、展示替期間、年末年始
観覧料	2027 年 1 月 11 日まで　所蔵作品展 一般 500 円、大学生 250 円 2027 年 2 月 9 日から　所蔵作品展 一般 1,000 円、大学生 500 円 企画展 展覧会により異なる
アクセス	東京メトロ東西線「竹橋駅」1 b 出口より徒歩 3 分 東京メトロ・都営地下鉄「九段下駅」2 番出口、「神保町駅」A1 出口より各徒歩 15 分 東京駅より徒歩約 20-25 分
住所	〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園 3-1
ウェブサイト	https://www.momat.go.jp
お問い合わせ先	050-5541-8600（ハローダイヤル）　※こちらをご掲載ください

※休館日、観覧料等の最新情報は当館ウェブサイトにてご確認ください。
※記事掲載や作品画像の使用に際しては、必ずご連絡ください。

報道関連のお問合せ先
東京国立近代美術館　広報担当
〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園 3-1
Tel：03-3214-2597　Fax：03-3214-2577　E-mail：pr@momat.go.jp